

平成25年度第2回白井市子ども・子育て会議
 摘録

会議名	平成25年度第2回白井市子ども・子育て会議	
日時	平成26年1月30日(月) 午後3時から	
場所	白井市保健福祉センター1	
出席者氏名	委員	鳥海委員、金子委員、菅森委員、浅野委員、風間委員、廣澤委員、鈴木委員、駒村委員、嶋本委員、木村委員、大古場委員、田中委員、穴田委員、森委員
	事務局	高橋主幹 加藤副主幹 横山主査
欠席者氏名	田村委員、宮田委員、山口委員、星委員	
次第	1. 開会 2. 報告事項 3. 議事 (1) 白井市次世代育成支援地域行動計画(しろい子どもプラン)の平成24年度進捗状況について (2) 白井市子育て支援に係るアンケート調査の単純集計結果について 4. その他 5. 閉会	
議事内容	次ページ以降の通り	

議 事

1. 開会

2. 報告事項

(白井市私立幼稚園連絡協議会より、風間博之委員に代わり風間一郎委員が就任)

3. 議事

(1) 白井市次世代育成支援地域行動計画（しろい子どもプラン）の進捗状況について

(事務局より説明)

廣澤会長：何か質問等ございましたらお願いいたします。

金子委員：事業 no. 41 特別支援学校等の放課後対策の実施について、小学校の利用はあるのでしょうか。

事務局：今ここに数値としてはありませんが、実際に利用はあると思います。

金子委員：松戸の学校まで通っているお子さんが帰ってきてから使いたい方が個別に相談にきており、利用先でサービスを受けると送迎先の問題があるということがあったので、この場で質問させていただきました。

事務局：確認させていただきます。

穴田委員：ママヘルプについての報告は何かありませんでしょうか。

事務局：ママヘルパー派遣事業も重点項目と数値はないが、利用人数が 16 名、延べ利用日数が 210 日となっています。利用延べ時間が 265 時間の実績があります。この事業は生まれて 8 週間の母親の肉体的・精神的な負担の軽減を目的に行っています。

森委員：待機児童数は実数は何人いるのでしょうか。

事務局：直近で 40 人となっています。年度末になると増え、新年度になると減っていきます。

森委員：申し込み時期が 11 月頃からなので、それに合わせて待機児童が増えているのですか。

事務局：その通りです。

(2) 白井市子育て支援に係るアンケート調査の単純集計結果について

(事務局より説明)

廣澤会長：何か質問等ございましたらお願いいたします。

風間委員：たとえば母親の就労状況、母親の職場までにかかる時間のサンプル数がどこから出てきたものになりますか。

事務局：実際に働いている人ということになるので、母親の就労状況の選択肢 1～4 の数値を足した結果になります。しかし、10 程差がありますので、再度確認させていただきます。

風間委員：この結果にたいしてどれぐらい信ぴょう性があるのかと気になりました。今後の就労希望については、どこを対象に聞いているものなのですか。

事務局：就労状況の選択肢「3」「4」に聞いているものになります。

風間委員：どういう質問をして、どういう回答を集計したらこの結果になったというところを出してほしいと思います。また、幼稚園の預かり保育の捉え方について、問 4 の平日定期的に利用している預かり保育と問 28 の預かり保育についてのわけかたについてお教えいただければと思います。利用希望で 40% 近くが不明・無回答となっているが、アンケートとしていかがなものでしょうか。また、幼稚園の利用開始時間

について7時から実施している園もある中で、アンケートの結果ですと、8時からなっていますが、この時間の回答についてはどうなっているのでしょうか。

事務局：定期的な教育・保育の事業の捉え方として、月単位での定期的な利用事業と考えております。

風間委員：うちの園では月単位で実施していませんので、たとえば週に何回つかってそれを毎週繰り返せば、それが定期的な利用になるのか、あるいは一時的利用との線引きのところが伺いたいです。

事務局：定期的な利用については、月単位で考えております。年間を通して利用できるものとして考えております。

風間委員：園によっては利用に制限がかからないものもあり、目的によって定期的・一時的の捉え方が難しいと思ったところです。利用開始時間の8時という回答についてはいかがですか。

事務局：8時の回答に7時台も含まれています。なので、厳密に「8時以前」と表記させていただきます。今後の集計については分けることも可能ですので対応させていただきます。

風間委員：7時から預かっているところと8時から預かっているところがあり、アンケートでの結果によっては、早めに預かっていくことも考えなければいけないので、そこが気になったところです。別の質問で問13の今後の利用希望日数で不明・無回答が多いのはいかがでしょうか。

事務局：アンケートに答えていただいた方の現状としましては、現状の利用の状況を書き、そのすぐ下の覧に希望を書いていただくこととなりますが、実際には現状のところだけを書いて、希望のところを書かない方がほとんどとなってしまっています。

風間委員：0～2歳については保育の利用希望の人と家で見ればよいという人がいるので、年齢での利用希望の日数や時間が大事になってくるので、その細かいデータを出していただければと思います。今後認定区分をこの場で考えていく上で就労状況等が重要になってくるので、年齢ごとの細かい数値についてもご対応いただければと思います。

事務局：速報値ということで上げさせていただいたので、ご理解いただければと思います。

大古場委員：改良版がでるということで、お願いしたいところがあります。小学生のアンケートの幼稚園・保育園の満足していなかった理由を明らかにしていただきたいのと、学童保育についても同様の傾向が見られるので、不満があるところの理由を出すときに理由も明らかにしていただきたいと思います。

事務局：その他の自由記述については、分類分けしながらお出しさせていただければと思います。

鈴木委員：問39 悩み相談や情報提供のための講座の開催の周知度について7割程度が知らないとなっているが、アナウンス不足なのでしょうか。

事務局：情報の提供不足もあるかと思います。

鈴木委員：せっかく良いことをやっているのに、アナウンスは徹底した方がよいと思います。

廣澤会長：他の間にも周知度が低いところがあったが、周知の方法については実際どうしているのでしょうか。

事務局：全体的には広報やHPへの掲載していますが、また、各事業でパンフレット等を配布していますが、今後も周知に努めてまいります。

保育についても病児・病後児保育等については、広報やHP以外に窓口での周知も図っていますが、アンケートでこれだけ認知度が低いことを認識しましたので、改

めて周知に努めて参りたいと考えております。

廣澤会長：手紙や広報だと興味のない人は読まないことが多いので様々な方法で周知に努めていただければと思います。

事務局：特別支援学校について担当課に確認したところ、全体で30人の利用があり、そのうち小学生が14名となっていますので、訂正させていただきます。

風間委員：小学校就学前児童の中で特別支援の必要な人の状況について教えていただけないでしょうか。

事務局：こども発達センターで対応しております。

風間委員：療育手帳を持った人で幼稚園や保育園に入っている方もいると思うので気になったところです。

事務局：こども発達センターで対応しておりますの実績について、平成21年で179名で、グループ指導が延べ2,962名個別指導が延べ3,070名、相談支援で延べ104名となっています。その中で幼稚園や保育園に入っている方も発達センターの方で把握はしております。

4. 閉会

事務局：次回会議については3月中旬を予定しております。

5. 閉会

(終了)

以上